

2014年 虐殺された中国人労働者を追悼する集い

2014年9月7日

「関東大震災から91周年 関東大震災で虐殺された中国人労働者を追悼する集い」は韓国YMCA 9階ホールで開催された。会場正面には関谷興仁さんによる「悼」と受難者の名標が掲げられ、中華人民共和国駐日本国大使館をはじめ、旅日蒙難華工遺族、義士王希天遺族、日本温州同郷会、社団法人 日本温州総商会、全日本華僑華人連合会 会長 顔 安、一般社団法人 東京華僑総会、熊本華僑華人総会 名誉会長 林康治、京都華僑総会、岡山華僑華人総会、三重華僑華人総会 名誉会長 蔡義雄、一般社団法人 日中協会、旅日華僑中日交流促進会、関東大震災中国人受難者を追悼する会の14団体から供花が並べられた。

虐殺された旅日勞工12名の20歳代から70歳代までの遺族18名が参加した。

全員で黙祷したあと、訪日団の紹介があり、訪日団を代表して周江法（周春蕾さん代読）さん、黄建豊さん、蘇忠海さんの3名が挨拶した。また今回参加することのできなかつた王希天ご遺族の王旗さんからは長文のメッセージが寄せられた。



来賓は、中華人民共和国駐日本国大使館、社団法人温州総商会の金喆さんの紹介があり、社団法人日中協会理事長の白西紳一郎さんが挨拶にたった。その後、李政美（イ・ジョンミ）さんの歌声にあわせ献花の列が続く。訪日団との意思疎通のために同時通訳機を用意し墨面さんと朱弘さんによる通訳で集いは進んだ。

周江法さんが関東大地震被害中国旅日華工遺族聯誼会結成にむけてのよびかけを力強く行い、会場全体を感動させた。

さまざまな取り組みは、専修大学非常勤講師の小笠原強さんが「関東大震災下の朝鮮人虐殺解明・追悼に関する地域の取り組み―千葉の事例を中心に―」と題して報告し、林伯耀さんが、「日本政府は関東大震災下の中国人虐殺に最終的にどのように対応したか?…私達の立ち位置を考える前に」を問題提起した。会場からは、凌星光さん、加藤直樹さんが発言した。

集会の最後に、集会アピールとして、温州の遺族聯誼会の提起する課題、第一に、日本政府が事実を認め、その責任の所在を明らかにし、謝罪、賠償を行うこと、第二に、日本の歴史教科書に関東大震災の虐殺の事実を記述し、教訓化し、誤った歴史認識をただすこと、第三に、各受難現地に記念碑又は記念館を

建立し、歴史の事実を後世に伝えること、を確認し、日本国内において、このような中国人、朝鮮人虐殺の歴史があったことを直視し、日本政府に対してこの事件の真相究明を求め、加害国家としての責任を誠実に果たすことを要求し、同時に、二度と悲劇の歴史を再演させないために、歴史に正義と公道を回復させるために、関東大地震被害中国旅日華工遺族聯誼会（準）と連帯し、関東大震災下の中国人虐殺を「日本社会の記憶」として刻み直す歩みを共にすることを決議した。

前日の6日には、先祖の被害現地参観。横網町公園の幽冥鐘の前で追悼。荒川河川敷の韓国・朝鮮人犠牲者追悼式に参加。

8日には、国会前示威行動を行い、日本政府への要求書を提出した（対政府交渉参照）。



↑大島8丁目集団虐殺現場で追悼

↑逆井橋

←幽冥鐘の前で紙銭を燃やして追悼



9月8日、国会前行動ののち対政府交渉